



**1 国有林野の管理経営に関する基本方針に
基づく管理経営の推進**

1 国有林野の管理経営に関する基本方針に基づく管理経営の推進

(1) 公益的機能の維持増進を旨とした管理経営

① 重視される機能に応じた管理経営の推進

国有林野は、奥地脊^{せきりょう}梁山^{りやうざん}地や水源地域に広く分布しており、地域特有の景観や豊かな生態系を有する森林も多く、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の公益的機能の発揮に大きな役割を果たしています。

また、近年では、森林に対する国民の皆さんの期待や要請が、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育や木の文化の継承への貢献等、さらに多様化しています。

国有林野事業では、公益的機能の維持増進を旨とする方針の下で、こうした要請に適切に対応するため、それぞれの国有林野を重点的に発揮させるべき機能によって次の三つの類型に区分し、適切かつ効率的な管理経営を行っています。

- ・ 国土の保全や水源のかん養を通じて安全で快適な国民生活を確保することを重視した「水土保全林」
- ・ 貴重な自然環境の保全や、国民と自然とのふれあいの場を提供することを重視した「森林と人との共生林」
- ・ 公益的機能の発揮に配慮しつつ、効率的に木材等の林産物の生産を行うことを重視した「資源の循環利用林」

表－1 国有林野の機能類型区分ごとの目指すべき森林の姿

機能類型区分(計759万ha)			目指すべき森林の姿	森林施業 ^{注)} の特徴
公益林	水土保全林 495万ha (65%)	国土 土タ 保イ 全プ 149万ha (20%)	樹木の根が土壌に張り巡らされ、落葉層が保たれ、下草の発達が良好な森林	天然林 ^{注)} では、育成複層林施業 ^{注)} を推進。人工林 ^{注)} では、複層林化や、自然に育った広葉樹等 ^{注)} を活用した針広混交林 ^{注)} 化を推進。
		水源 かタ んイ 養プ 347万ha (46%)	隙間が多く雨水を吸収しやすい土壌を有し、多様な樹種で構成される根や下草の発達が良好な森林	天然林では、育成複層林施業を推進。人工林では、複層林化、伐期の長期化、針広混交林化を推進。
	森林と人との共生林 207万ha (27%)	自然 タ維 イ持 プ 148万ha (19%)	原生的な森林生態系を保つ森林や、貴重な動植物の生息・生育に適した森林	特別な場合を除いて伐採を行わず、自然の推移 ^{注)} に委ねる天然生林施業 ^{注)} を実施。
		森林 空間 タ利 イ用 プ 59万ha (8%)	優れた自然美を有する森林や、史跡、名勝等と一体となった特色ある景観や歴史的風致を構成する森林	天然林では、多様な森林を維持・造成するための天然生林施業を実施。人工林では、景観の維持に配慮しつつ、育成複層林施業等を実施し、必要に応じて広葉樹等の導入による針広混交林化を推進。
	資源の循環利用林 56万ha (7%)		成長力が旺盛で優れた木材等の林産物の生産に適し、林道等が整備された森林	通常伐期の育成単層林施業 ^{注)} を実施。また、大径材の供給を目的として長伐期施業 ^{注)} も実施。

注：1 面積は、平成18年4月1日現在の数値である。

2 右肩に「注)」と書いてある用語については、57～62ページにその解説を記載している。

3 計の不一致及び割合の合計が100%にならないのは、四捨五入による。

ア 水土保持林

国有林野の65%を占める「水土保持林」は、その目的によって、「国土保全タイプ」と「水源かん養タイプ」に分けています。

「国土保全タイプ」の森林では、土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に、間伐^{注)}等の施業を行っています。

「水源かん養タイプ」の森林では、渇水や洪水の緩和等を目的として、健全な森林を保っていくために、100年程度の長い周期で伐採や植林を繰り返す長伐期施業や、育成複層林施業、針広混交林化等を行っています。

この育成複層林施業を進めるために、長期育成循環施業^{注)}を推進しました。

このほか、土砂崩れや土砂の流出による森林の荒廃を回復したり防ぐための治山施設の整備も行っています。



場所：中部森林管理局管内
説明：写真は、針葉樹の一斉林に抜き伐り（択伐）を行って広葉樹の侵入を図り、針広混交林に誘導している様子です。

事例 水源かん養保安林の機能の維持増進

宮崎北部森林管理署では、崩壊が発生した水源かん養保安林において、現地の状況に応じた効果的な復旧対策に努めています。

過密になっている保安林の機能を回復するため、本数の調整を行うとともに、崩壊した箇所には、本数調整で得られた丸太を活用した木柵や現地発生石材を活用した治山施設を設置したり、周辺に自生する樹種を植栽するなど効果的で効率的な保全・整備を図っています。

（九州森林管理局 宮崎北部森林管理署）



場所：宮崎県西臼杵郡日之影町 黒仁田見立国有林
説明：写真は、水源かん養保安林内に発生した崩壊地（左上）、崩壊地の復旧及び周辺の保安林への本数調整伐（下）、植栽した苗をシカの食害から守るために設置したヘキサチューブ（右上）の様子です。

イ 森林と人との共生林

国有林野の27%を占める「森林と人との共生林」は、自然環境の維持・保全、遺伝資源の保存等を目的とした「自然維持タイプ」と、レクリエーション活動の場の提供や優れた景観の維持を目的とした「森林空間利用タイプ」に分けています。

「自然維持タイプ」の森林では、特に原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林を対象に、保護林（31ページ参照）の設定を進めています。

「森林空間利用タイプ」の森林では、国民の皆さんに森林浴や野外スポーツなどの活動を通じて森林とのふれあいを体験していただく「レクリエーションの森」（46ページ参照）や、森林づくりを行うボランティア団体等に活動の場を提供する「ふれあいの森」（21ページ参照）を設定しています。

また、世界文化遺産周辺の森林景観を保全するための施業等にも取り組んでいます。

事例 生物多様性の保全と風致向上に向けた取組

えんな
塩那森林管理署では、近年、急速に乾燥化が進行している那須塩原市大沼周辺の湖沼群における生物多様性の保全と風致向上を目的に様々な取組を推進しています。

平成17年度は、地元自治体、NPO^注、環境省、有識者等で構成する「大沼周辺自然再生推進協議会」を設立し、事業計画の検討・策定等を行い遊歩道の設置、人工林の間伐、在来樹種（広葉樹）の植栽、ヨシ沼から水が流出している部分の土手修復と水位変化のモニタリングなどに取り組みました。

（関東森林管理局 塩那森林管理署）



場 所：栃木県那須塩原市 大沼周辺

場 明：写真は、大沼周辺自然再生推進協議会（左上）と地元NPO等による広葉樹植栽（右下）の様子です。



しやりぐんしやりちょう
場所：北海道斜里郡斜里町

説明：写真は、「自然維持タイプ」

として特別な保全・管理を行うため「知^{しれとこ}床森林生態系保護地域」に設定している森林^{いおうざん}（硫黄山周辺）の様子です。

ウ 資源の循環利用林

国有林野の7%を占める「資源の循環利用林」は、国民生活に必要な木材を安定的かつ効率的に供給することを目的とする森林です。

その約6割は、スギ、ヒノキ等の成長が盛んな人工林であり、多くは間伐などの適切な森林整備を行っていくことが必要です。

資源の循環利用林では、多様で良質な木材を将来にわたって安定的に供給していけるよう、木材の生産目標に応じて更新^{注)}、保育^{注)}や間伐を進めるとともに、効率的な木材生産の基盤となる作業道の整備も進めています。

特に、水土保持林も含めて、森林の健全性の維持増進を図るため、木材の需要拡大にも努めながら、間伐を推進しました。

表－2 更新、保育、間伐の実施状況 (単位：ha、%、万m³)

区 分		平成17年度	(参考)平成16年度
更新 (ha)	人工造林 ^{注)}	2,992	3,502
	資源の循環利用林	938(31)	1,474(42)
	天然更新 ^{注)}	8,838	12,217
	資源の循環利用林	688(8)	1,384(11)
保育 (ha)	下刈 ^{注)}	82,909	88,102
	資源の循環利用林	11,357(14)	14,567(17)
	つる切 ^{注)} 、除伐 ^{注)}	18,978	28,335
	資源の循環利用林	3,093(16)	5,577(20)
間伐(万m ³)		360	327
	資源の循環利用林	61(17)	75(23)

注：1 ()書は、資源の循環利用林において実施したものの割合(%)である。

2 分収造林(20ページ参照)における実績を含む。

事例 効率的な間伐の推進

岡山森林管理署では、健全な森林を育てるために不可欠な間伐を一層推進するため、列状間伐^{注)}など多様な間伐に取り組んでいます。

また、間伐に当たっては、現地の状況等に応じて、高性能林業機械^{注)}(プロセッサ^{注)}、フォワーダ^{注)}等)を組み合わせた効率的な方法を採用しています。

(近畿中国森林管理局 岡山森林管理署)



場 所：岡山県新見市 入開山国有林
 明：写真は、列状間伐を行った森林の遠景(左上)と近景(右上)、高性能林業機械(フォワーダ)による搬出作業(下)の様子です。

② 路網の整備

森林の適切な整備や保全を行うため、投資効率や景観などに十分配慮しながら、林道や作業道等による路網^{注)}の整備を進めています。

基幹的な役割を果たす林道については、平成17年度に131路線を開設した結果、平成17年度末の路線数は12,489路線、延長は43,461kmとなりました。

また、地球温暖化対策として間伐等の森林整備を高性能林業機械を活用して低コストで効率的に推進するため、基幹となる林道と組み合わせて継続的に利用する作業道を整備しています。

こうした路網の整備に当たっては、地形に沿った路線線形にすることで発生する土砂量や構造物の設置数を減少させるほか、現地発生材を活用することで、コスト縮減等に努めています。

さらに、国有林と民有林が併存する地域では、民有林林道等の開設計画と調整を図り、計画的かつ効率的な路網の整備に努めています。

事例 低コスト・高効率な作業システムに適合した路網整備の推進

九州森林管理局では、管内の多くの人工林が間伐の適期を迎えるとともに、今後、伐期の長期化や複層林化を進めることが必要なことから、高性能林業機械を組み合わせた高効率な作業システムを積極的に導入するとともに、作業システムに適合した路網整備を推進することが課題となっています。

このため、先進地から講師を招いた検討会を開催し、低コストで開設でき、壊れにくく繰り返し利用できる路網の整備に取り組んでいます。

(九州森林管理局)



場 所：宮崎県児湯郡木城町 尾鈴国有林

説 明：写真は、現地検討会での講師の説明（左上）と開設作業の実演（右下）の様子です。

③ 治山事業の実施

平成17年度は、7月の九州北部地方における梅雨前線に伴う集中豪雨や、9月の台風14号による宮崎県内を中心とした豪雨等により、九州森林管理局管内を中心に、大規模かつ甚大な山腹崩壊等の山地災害が発生しました。このため、これらの崩壊地等を緊急に復旧すべく、「国有林野内直轄治山災害関連緊急事業」などを実施し、荒廃山地の復旧を図りました。

また、平成16年10月に発生した新潟県中越地震による山地災害の本格的な復旧を開始しました。

このように、平成17年度には、迅速な災害対応に努めるとともに、総額約378億円の「国有林野内直轄治山事業」を行ったほか、中越地震のように民有林内で発生した大規模な土砂崩れや地すべりで工事に高度な技術が必要な箇所等について、総額約155億円の「民有林直轄治山事業」と「直轄地すべり防止事業」を行いました。

これらの事業を行うに当たっては、自然環境の保全に配慮したり、地球温暖化防止の観点などから間伐材の利用拡大に努めています。

なお、近年局所的な集中豪雨が多発し、上流部の国有林から下流部の民有林へ連なって災害が発生する例も少なくないことから、新たに「治山事業連絡調整会議」を開催して、復旧計画の策定などを関係都道府県との一層緊密な連携の下で進めました。

事例 山地災害の効果的な復旧対策への取組

九州は、梅雨期の集中豪雨や台風の常襲地帯であり、平成17年7月の豪雨災害では熊本県及び大分県、9月の台風14号災害では宮崎県を中心に福岡、熊本、大分、鹿児島各県で甚大な山地災害が発生しました。

中でも、台風14号により甚大な被害を受けた宮崎県の^{わにつかやま}鰐塚山山系については、九州森林管理局及び宮崎森林管理署をはじめ宮崎県、宮崎市、国土交通省九州地方整備局、学識経験者を構成員とする「鰐塚山山系土砂災害対策検討委員会」を設置して復旧計画等の調整・検討を行い、効果的な復旧対策に取り組んでいます。

(九州森林管理局 宮崎森林管理署)



場 所：宮崎県宮崎市 ^{ほんたの}本田野国有林ほか
 説 明：写真は、ヘリコプターから撮影した大規模な山地災害の発生状況（左上）と鰐塚山山系土砂災害対策検討委員会（右下）の様子です。

(木材・木製品の使用事例)

事例 新潟県中越地震被災地における本格的な復旧

関東森林管理局では、新潟県中越地震によって大規模な地すべり等が発生した箇所について、新潟県から林野庁へ直轄事業の実施要望がなされたことを受けて、平成17年4月、中越山地災害復旧対策室を開設し、本格的な中越地区民有林直轄地すべり防止事業に着手しました。

(関東森林管理局 中越森林管理署)



場 所：福島県田村市

説 明：スギ・アカマツの間伐材を利用した山腹工^{注)}

場 所：三重県四日市市

説 明：型枠にスギ間伐材を利用した谷止工^{注)}



場 所：福岡県遠賀郡岡垣町^{おんがぐんおかがきまち}

説 明：スギ材を利用した丸太防風柵工^{注)}

場 所：新潟県^{おぢやし}小千谷市^{よびさか}呼坂地区

説 明：写真は、新潟県小千谷市呼坂地区における地すべり等発生直後（左上）と復旧状況（右下）の様子です。

(2) 森林の流域管理システムの下での管理経営

① 民有林との連携による森林・林業の活性化

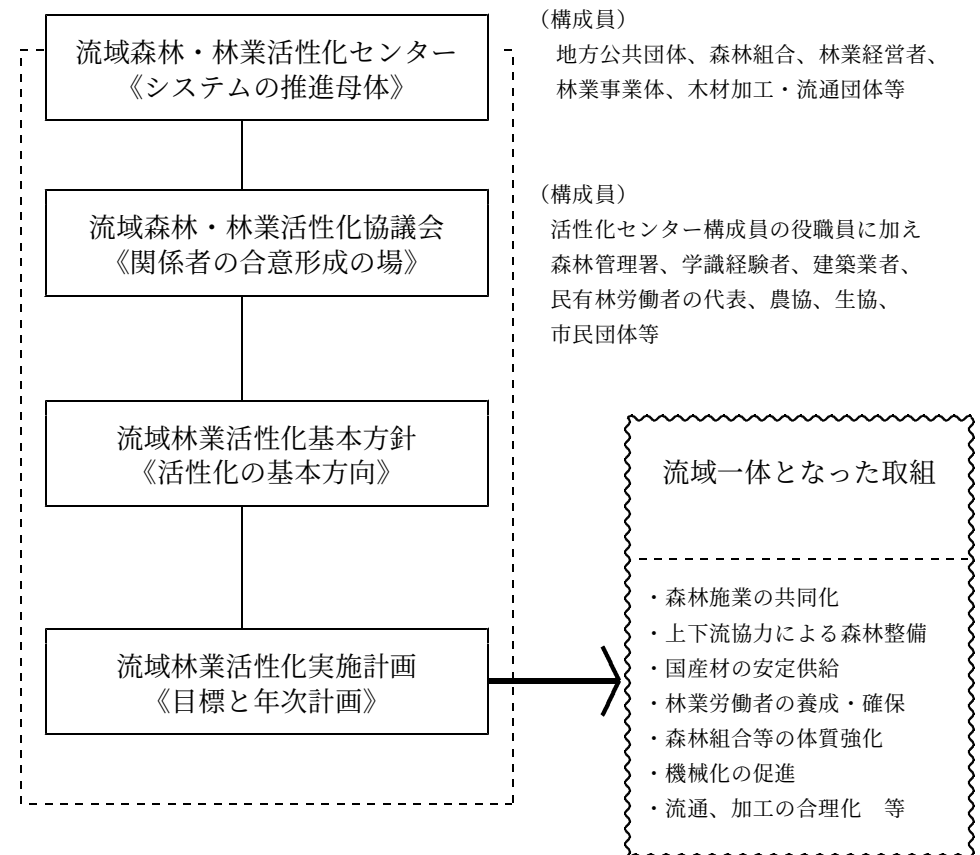
「流域管理システム」は、流域を基本単位として、民有林・国有林を通じた適切な森林整備の推進や林業・木材産業の振興を図るため、森林・林業・木材産業の関係者のみならず、下流域の都市住民等も含めた幅広い関係者が連携し、一体となって取り組もうとするものです。

国有林は、この流域管理システムの下で、流域森林・林業活性化協議会^{注)}などを通じて積極的な働きかけを行っています。

こうした中で、近年、地方公共団体等との間で覚書・協定を締結し、民有林と国有林との連携により効率的な森林整備等を推進する取組や、NPO、ボランティア団体等との間で協定を締結し、国有林をフィールドとして、民間団体等が森林づくり活動をはじめ多様な活動に取り組む事例が増えています。

図ー1 森林の流域管理システムの考え方

- 流域内の市町村、森林・林業・木材産業関係者等が、流域森林・林業活性化センター^{注)}を組織し、その下で協議会を開催。
- 流域ごとの活動の基本方針及び実施計画を策定するとともに、関係者間の合意形成を促進し、これに沿って流域一体となった取組を推進。



事例 水源林の保全に向けた森林整備協定の締結

空知森林管理署管内の新^{しんじょう}城地区国有林は、芦^{あしべつ}別市の中でも有数の稲作地帯に水を供給する重要な水源地です。

このため、空知森林管理署では、芦別市と森林整備協定を締結し、この国有林を「地域の水田を守る水源林」とし、森林教室やシンポジウムなどを開催するなど、民有林・国有林一体となった森林づくりを進めていくことにしています。

(北海道森林管理局 空知森林管理署)



場 所：北海道芦別市 新城地区国有林
説 明：写真は、芦別市長と森林管理署長との森林整備協定の調印式（左上）と協定の対象地で行った森林教室（右下）の様子です。

事例 流域林業活性化に向けた林業の担い手育成と技術の向上

広島森林管理署では、広島県林業労働力確保支援センターや森林組合が取り組んでいる「緑の雇用担い手育成対策事業」の技術研修のフィールドとして、管内の国有林を提供し、民有林・国有林連携による林業の担い手育成に取り組んでいます。

また、署では、公募により、一定区域における伐採、造林等を組み合わせた効率的な施業を進めることなどを通じて、林業事業体の育成にも寄与しています。

(近畿中国森林管理局 広島森林管理署)



場 所：広島県三原市^{うばがはらやま} 姥ヶ原山国有林（左上）、^{みよし}三次市（右下）
説 明：写真は、国有林をフィールドとして活用した技術研修（左上）と研修閉講式（右下）の様子です。

② 流域管理推進アクションプログラムの取組

流域管理システムの一層の推進を図るため、国有林野事業が流域ごとに先導的・積極的に取り組む行動計画として「国有林野事業流域管理推進アクションプログラム」（平成16～18年度）をとりまとめています。平成17年度は、森林施業の技術交流や地域材等の利用推進に向けた検討会など森林整備の推進や林業木材産業の振興を図るための取組を民有林関係者と合同で実施したほか、NPO、地域住民等が行う森林づくり活動の支援等の森林・林業に関する普及啓発のための取組など、全国で約630課題に取り組みました。

事例 施業技術の交流

青森森林管理署では、流域内の林業関係者と技術交流を図るため、管内で行っているヒバとスギの混植箇所や列状間伐の実施箇所で現地検討会（約40名が参加）を開催し、意見交換を行いました。

流域林業の活性化に向けて、今後とも、国有林・民有林相互の技術交流を継続していくことにしています。

（東北森林管理局 青森森林管理署）



場 所：青森県東津軽郡^{いまべつまち}今別町^{はかまごし}袴腰国有林（左上）
^{そとがはままち}外ヶ浜町^{ひがしおくにやま}東小国山国有林（右下）

説 明：写真は、ヒバとスギの混植地（左上）と列状間伐実施箇所（右下）で行われた現地検討会の様子です。

事例 国有林・民有林が連携した地域材の利用推進

東濃^{とうのう}森林管理署では、木曽川流域森林・林業活性化センターをはじめ流域内の林業・木材産業関係者と連携して、地域のブランド材利用推進に取り組んでいます。平成17年度は、工務店経営者などを対象にした木曽ヒノキ現地見学会や市民の方を対象にしたＪＲ駅構内でのパネル展示などを実施しました。

(中部森林管理局 東濃森林管理署)



場 所：岐阜県中津川市 ^{かしもうらきそ}加子母裏木曽国有林（左上）
愛知県名古屋市 ＪＲ金山駅構内（右下）
説 明：写真は、工務店経営者などを対象とした木曽ヒノキ林の現地見学会（左上）と駅構内でのパネル展示（右下）の様子です。

(3) 国民の森林としての管理経営

① 双方向の情報受発信

開かれた「国民の森林」としての管理経営を一層推進するため、森林環境教育の活動支援等を通じて、森林・林業に関する情報・サービスを提供するとともに、「地域管理経営計画^{注)}」等の策定や変更にあたっては、計画案を広く公表して国民の皆さんの意見を聴くなど、双方向の情報受発信による対話型の取組を進めています。

平成17年度には、「国有林モニター^{注)}会議」等を通じて国有林に関心のある国民の皆さんに幅広く情報を提供するとともに、様々な意見をいただきました。

このほか、ホームページの充実や森林管理局の業務予定を記者発表するなど、広報活動にも積極的に取り組んでいます。

＊ 国有林や各森林管理局等のホームページアドレスを62ページに掲載しています。

事例 国有林モニター会議の開催

関東森林管理局では、国有林の果たす役割や業務の内容等について理解いただけるよう、国有林モニター会議を日光森林管理署管内の足尾地区で実施しました。

参加されたモニターの皆さんには、かつて鉱山からの煙害等によって荒廃した森林が再生しつつある久蔵沢^{くそうざわ}や未だ回復には至らない松木沢^{まつきざわ}の状況を比較していただき、長年の継続的な国有林の取組や計画的な治山対策の重要性について実感していただきました。

(関東森林管理局)



場所：栃木県日光市（旧足尾町） 胡南^{こなん}国有林

説明：写真は、治山事業により緑化の効果がでてきた久蔵沢をモニターの皆さんが見学している様子です。

事例 四国の森八十八箇所マップの作成

四国森林管理局では、管内の森林との係わりが深い観光地やレクリエーション施設など88箇所を紹介する「四国の森八十八箇所マップ」を作成しました。

間伐材を使用した紙で作られたマップでは、四国を吉野川、肱川^{ひじかわ}、四万十川など12の流域ごとに、「剣山^{つるぎさん}自然休養林」（吉野川流域）、「四万十源流の大モミ」（四万十川流域）など、特徴ある見所を紹介しています。

このマップは、道の駅、高速道路サービスエリア、駅、空港などに配布するとともに、森林管理局のホームページに掲載しており、多くの国民の皆さんに四国の森林について理解いただけるようにしています。

（四国森林管理局）



説明：「四国の森八十八箇所マップ」のうち、四万十川流域のマップの一部です。

② 森林環境教育の推進

「森林環境教育」の実践の場として国有林野を利用いただけるよう、プログラムの整備やフィールドの提供などに積極的に取り組んでいます。

この一環として、学校等と森林管理署等とが協定を結び、国有林の豊かな森林環境を子どもたちに提供して、様々な自然体験や自然学習を進めていただく「遊々の森^{ゆうゆう}」の設定を進めています。

平成17年度には新たに14箇所¹⁴で協定が締結され、森林教室、ネイチャーゲームや体験林業など様々な活動が行われています。

さらに、森林環境保全ふれあいセンター（23ページ参照）では、森林環境教育に取り組む教育関係者の方々の活動を支援しています。

このほか、森林管理局や森林管理署等では、国民の皆さんに森林・林業や国有林野事業への理解を深めていただくため、様々な主体と連携して、植樹祭や育樹祭、森林教室等を開催しています。

表－3 教育関係機関等との連携による森林環境教育の取組状況

連携機関	回数	参加者数	主な取組内容
小学校	464	29,753	森林教室、木工教室、自然観察会等の開催や植樹などを実施
中学校	146	7,229	森林教室、下刈、間伐等の体験林業や森林調査等の体験などを実施
高校・大学	73	4,672	枝打ち ^{注)} 、間伐等の体験林業や森林管理署等における就業体験などを実施
教育委員会	68	7,450	教職員を対象とした森林教室やネイチャーゲームの体験などを実施
その他	281	47,951	地域の自治体やNPO等と連携して開催した各種イベントの中で、プログラムの一部として森林教室などを実施
計	1,032	97,055	

注：回数及び参加者数は、平成17年度の実績である。

事例 教育関係者の活動支援

福島森林管理署では、福島市小学校教育研究会からの要請を受けて、小学校の先生約150名が参加する研修会のためにフィールド提供と講師派遣を行いました。

研修会では、「森の働き」について説明したほか、自然観察、下刈作業、木工作を指導するなど、森林環境教育に対する先生方の理解が深まるよう、積極的に支援しました。

(関東森林管理局 福島森林管理署)



場所：福島県福島市松川町南沢国有林
説明：写真は、先生方を対象とした研修会の様子です。

事例 デジカメ森林探検隊の活動

近畿中国森林管理局では、都会の子どもたちに自然と接し、関心を深めてもらうことを目的として、デジタルカメラと虫眼鏡を用いた植物や昆虫の観察会（通称：デジカメ森林探検隊）を開催しています。

参加した子どもたちにとっては、カメラのファインダーや液晶画面、プリント写真を通して、日常生活では見過ごしがちな身近な自然の存在や生物たちの営みにあらためて気づく良い機会となりました。

(近畿中国森林管理局)



場所：滋賀県大津市 一丈野^{いちじょうや}国有林
説明：写真は、虫眼鏡を用いたデジカメ撮影（左上）と自然素材を用いた手作りフレームへの写真飾り付け（右下）の様子です。

事例 「遊々の森」を活用した森林環境教育の取組

岩手県久慈市（旧山形村）は、三陸北部森林管理署久慈支署管内の平庭^{ひらにわ}国有林に「ぐれっと遊々の森」を設定し、小中学校の森林環境教育の場として活用しています。

また、支署では、同市がこの森に地元の小中学生をはじめ東京都などからの修学旅行生も受け入れて、間伐や炭焼き、キノコ狩りなどの体験学習を行う際に、職員を講師として派遣しています。

（東北森林管理局 三陸北部森林管理署久慈支署）



場所：岩手県久慈市 平庭国有林

説明：写真は、「ぐれっと遊々の森」を活用した木工作（左上）とネイチャーゲーム（右下）の様子です。

③ 森林整備・保全への国民参加

ア 分収林制度による森林づくり

国有林野事業では、将来の木材販売による収益を分け合う（分収する）ことを前提に、契約者の方が木を植えて育てる「分収造林」や、契約者の方に生育途上の森林の保育や管理などに必要な費用の一部を負担していただき国が育てる「分収育林」の制度を通じて国民参加の森林づくりを進めています。

これらの分収林制度^注を利用して、企業が社会に貢献するとともに社員教育や顧客とのふれあいの場として森林づくりを行う「法人の森林^{もり}」の設定が行われています。

また、分収育林の契約者である「緑のオーナー」の皆さんに対しては、契約している森林への案内や植樹祭等のイベントへの招待など、森林とふれあう機会の提供などに努めています。

表ー4 分収林の現況面積

(単位：ha)

区 分	平成17年度	(参考)平成16年度
分収造林	131,967	132,362
うち法人の森林	719(248)	680(239)
分収育林	23,837	24,451
うち法人の森林	1,225(172)	1,184(160)

注：1 面積は、各年度期末現在の数値である。

2 「うち法人の森林」欄の（ ）書は、箇所数である。

事例 「法人の森林」の契約

宮城北部森林管理署では、栗駒^{くりこま}地域を拠点に地域材にこだわった家造りに取り組んでいる工務店と「法人の森林」の分収造林契約(面積5.12ha)を締結しました。この工務店では、「森林への恩返し」という観点から、都市部の工務店関係者とタイアップし森林づくり活動を行うことにしています。

署では、工務店による活動を支援するため、参加者を対象にした伐採現場や木材加工施設の見学会、森林教室の開催に協力するなど、地域材の利用拡大に努めています。

(東北森林管理局 宮城北部森林管理署)



場 所：宮城県栗原市 永洞^{くりはらし えいどうやま} 山国有林

説 明：写真は、「法人の森林」での植林活動（左上）と森林教室（右下）の様子です。

イ NPO等による森林づくりの支援

自ら森林づくりを行いたいという国民の皆さんの要望に応えるため、国有林野を森林づくりのフィールドとして提供する「ふれあいの森」の設定を平成11年度から進めています。ふれあいの森では、植樹や下刈のほか、森林浴、自然観察会、森林教室等の活動を行うことができます。

平成17年度末現在、全国に147箇所のふれあいの森が設定されており、延べ約1万2千人の方に森林づくり活動に参加していただきました。

森林管理署等では、継続的に森林づくり活動に参加していただけるよう、活動フィールドの提供をはじめ技術的な助言や講師の派遣等の支援を行っています。

また、ふれあいの森以外の国有林野においても、ボランティア団体等の皆さんによる森林づくり活動に対して技術指導等の支援を行っています。

事例 NPO等による森林づくり活動への支援

静岡森林管理署では、平成8年の台風17号により甚大な被害を受けた富士山^{あしたかやま}国有林と愛鷹山国有林の一部について、NPO、ボランティア団体、企業等に森林づくり活動のフィールドを提供してきました。10年に及ぶたくさんの方々の汗と努力により、植林がほぼ終了しましたが、署では、今後とも、各NPO等の皆さんが互いに連携を深めて継続的に森林整備活動を進めていただけるよう、「富士山国有林森づくり連絡協議会」の設立を支援するとともに、事務局を引き受けることにしました。

(関東森林管理局 静岡森林管理署)



(富士山国有林森づくり連絡協議会の構成)

行政 : 関東森林管理局、静岡森林管理署
静岡県、富士市、富士宮市
NPO等 : 16団体
企業 : 2社



場 所：静岡県富士宮市 富士山国有林

説 明：写真は、「富士山国有林森づくり連絡協議会」の皆さんによる研修会（左上）と共同事業として実施した下刈作業（右下）の様子です。

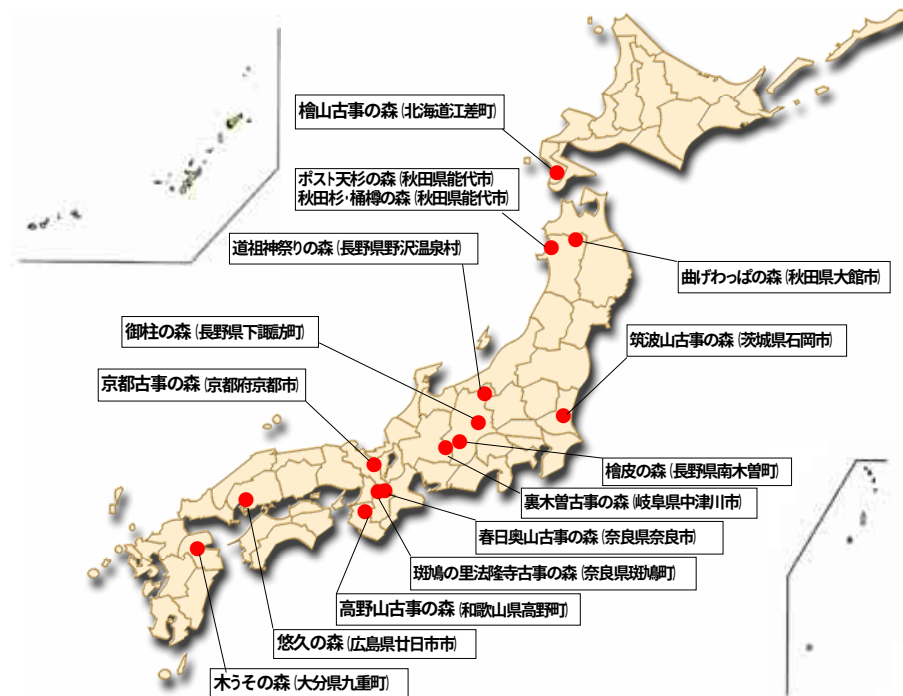
ウ 木の文化を支える森づくり

歴史的に重要な木造建築物や、各地の祭礼行事、伝統工芸等の次代に引き継ぐべき木の文化を守るため、国民の皆さんの参加による「木の文化を支える森づくり」を進め、平成17年度末現在、15箇所が設定されています。

平成17年度には、新たに奈良県斑鳩町に「斑鳩の里法隆寺古事の森」が設定されました。

また、これまでに設定された「古事の森」等では、設定の際に設けられた地元自治体等からなる協議会主催の植樹祭や協議会会員による下刈作業など継続的な取組が行われています。

図－2 「木の文化を支える森づくり」位置図



事例 市民参加による「古事の森」の整備

近畿中国森林管理局と奈良森林管理事務所では、国宝や重要文化財等の伝統的建築物の修復用資材を確保するため、世界最古の木造建築物で我が国最初の世界遺産^注にもなった法隆寺に因んで、斑鳩町内の野山国有林に「斑鳩の里法隆寺古事の森」を設定しました。

平成18年2月には、設定を記念して、地元の小学生や一般参加者など約270名がヒノキを植栽しました。

(近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所)



場 所：奈良県生駒郡斑鳩町 野山国有林

説 明：写真は、地元自治体や一般参加者による「斑鳩の里法隆寺古事の森」の植樹活動の様子です。

エ 生物多様性の保全や自然再生活動の支援

国有林では、ボランティアの方々と連携して希少種の保護など生物多様性の保全や自然再生に取り組んでいます。

平成17年度は、平成16年度に新設（全国10箇所）した「森林環境保全ふれあいセンター」を核として、自然再生や生物多様性の保全などに取り組む市民団体などの活動を支援しました。また、「国民の森林」の実現のための取組として、各森林管理局では、それぞれの地域や森林の特色を生かした効果的な森林管理が可能となる地区について、市民団体や地域住民の方々と協働・連携して森林の整備・保全活動を行う「モデルプロジェクト」も行っています。

事例 「100年前の原始性が感じられる森林づくり」の推進

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターでは、札幌市、江別市、北広島市近郊に広がる野幌森林公園が平成16年の台風18号で大きな被害を受けたことから、森林再生を市民参加型で進めるため、「野幌プロジェクト」を推進しています。

プロジェクトでは、「野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくり」をテーマに、地元のNPO等市民の皆さん、学校、企業及び自治体と協働・連携しながら植栽、保育等の森林づくりのイベント開催、森林と人とのかかわりや野幌の森林の魅力等について学ぶ森林環境学習、森林の再生過程のモニタリング等を進めています。

（北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター）

図ー3 森林環境保全ふれあいセンターの位置図



場 所：北海道札幌市、江別市、北広島市 野幌国有林
 説 明：写真は、地元企業の皆さんによる植栽（左上）と植栽木の生育状況のモニタリング（右下）の様子です。

事例 綾の照葉樹林プロジェクト

九州森林管理局では、宮崎県綾町及びその周辺に所在する国有林において、市民団体や地域住民の方々と協働・連携して、森林の整備・保全活動を行う「綾の照葉樹林プロジェクト」を推進しています。

このプロジェクトは、計画の初期段階から関係者間の意見調整を図りながら進めており、照葉樹^注を核とした自然と共生する地域づくりに向けて、新たな保護林の設定、人工林や二次林^注からの照葉樹林への復元、照葉樹林の重要性を学ぶ森林環境教育の実施など、多様な主体の参加による取組を進めています。

(九州森林管理局)



場 所：宮崎県東諸^{ひがし}郡綾町^{なにかお} 中尾国有林外
 明：写真は、照葉大吊橋と周辺の照葉樹林（左上）、活動計画等を検討するための森林管理局、自治体、NPO等からなる委員会（右上）、PRのための記念特別講演（下）の様子です。

事例 NPO等と連携した再生の取組

四万十川森林環境保全ふれあいセンターでは、シカの食害による影響が甚大な黒尊山^{くろそんやま}国有林において、NPO等と連携したシカ防護柵の設置や郷土樹種の植栽のほか、主に小中高生による下刈等の体験活動等を実施しています。

また、同センターでは、かつて高級建築用材として珍重されて資源が減少し、現在、遺伝資源保存のために保護・管理されている「大道マツ^{おおどう}（四万十町^{しまんと}（旧十和村）大道を中心とした一帯に生育しているアカマツ）」が松くい虫被害により衰退していることから、地元のNPO等と連携して発芽促進のための地表処理を行うなど、マツ林の保存・再生に取り組んでいます。

(四国森林管理局 四万十川森林環境保全ふれあいセンター)



場 所：高知県四万十市西土佐^{しまんとにしとさ} 黒尊山^{くろそんやま}国有林（左上）
 四万十町大道 古屋山^{ふるやま}国有林（右下）
 明：写真は、シカ防護柵（左上）と地表処理により発芽した大道マツ（右下）の様子です。

(4) 地球温暖化防止対策の推進

国有林野事業は、京都議定書の発効を受けて平成17年4月に閣議決定された「京都議定書目標達成計画^{注)}」や、これに基づく「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策^{注)}」等を踏まえ、二酸化炭素を吸収・貯蔵する健全な森林の整備・保全や木材利用等に率先して取り組んでいます。

このため、積極的な間伐や複層林化などの適切な森林整備（4ページ～7ページ参照）等を進めるとともに、保安林等の適切な保全管理（30ページ参照）に取り組んでいます。

また、森林吸収源対策に対して国民の皆さんの理解と協力が得られるよう、国民の皆さんの参加による森林づくり（20ページ～24ページ参照）や、双方向の情報の受発信（15ページ参照）、森林環境教育（17ページ参照）等を進めています。

さらに、治山事業（9ページ参照）等の森林土木工事に当たっては、木材の利用に積極的に取り組み、吸収源としての森林の整備の推進にも貢献しています。

表－5 二酸化炭素固定に資する木材・木製品の使用状況

区 分	平成17年度	(参考)平成16年度
林 道 事 業	14,011 m ³	9,472 m ³
治 山 事 業	37,771 m ³	39,110 m ³
計	51,782 m ³	48,582 m ³

参考：表－5の平成17年度に使用した木材・木製品には、約10.3千トンの炭素（約37.9千トンの二酸化炭素；全てスギを使用したと仮定）を蓄えており、二酸化炭素の吸収源である森林としてこれまで蓄えられ、地球温暖化防止に寄与した上で、さらに石油等の化石系の資源を消費することなく、引続き木材・木製品として利用されることにより、長期にわたって寄与するものです。なお、これは約16千台の自家用乗用車が一年間に排出した二酸化炭素に相当します。

事例 森林資源の循環利用促進会議の開催

四国森林管理局では、四国における森林資源の循環利用を促進するため、管内の国有林野所在市町村、企業、四国4県の森林・林業関係部局等とともに「森林資源の循環利用促進会議」を開催しました。

会議では、行政サイドから「未利用間伐材の有効活用の促進」、森林組合から「森林認証^{注)}取得と集成材工場の木質資源の活用」、電気事業者から「事業用火力発電所における木質バイオマスと石炭の混焼」など、それぞれの取組状況と課題に関する発表、今後の取組方向等に対する積極的な意見交換などが行われました。局では、森林資源の循環利用促進に向けて、今後は流通、建築分野等にも参加を呼びかけ、継続的に取り組んでいくことにしています。

(四国森林管理局)



場 所：高知県高知市 四国森林管理局
 説 明：写真は、県、市町村、企業等多くの方々が参加した「森林資源の循環利用促進会議」の様子です。

事例 新築庁舎を活用した木材利用推進のPR

広島北部森林管理署では、木材利用の推進を図る観点から、庁舎の新築に当たり、建築中の状況を広く一般の方々に公開しました。

新庁舎は、地元備北産の^{びほく}スギ、ヒノキを中心に国産材のみ約160m³を使用しており、見学いただいた方々に、木の持つ温かさや優しさなど木造建築の魅力はもとより、人と環境にやさしい素材である木材を利用することが地球温暖化を防止する上でも意義のあることを理解いただきました。

(近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署)



場 所：広島県三次市十日市中 ^{みよしとおかいちなか} 広島北部森林管理署

説 明：写真は、地元産のスギ、ヒノキ材を利用した新庁舎の上棟時（左上）と完成時（右下）の一般公開の様子です。

事例 地球温暖化防止・北のてっぺん緑化プロジェクト

宗谷森林管理署では、地元の関係機関や市民緑化団体などから地球温暖化を防止するために森林づくり活動を行いたいという要請を受けて、国有林をフィールドとして提供しました。

平成17年度は、市民緑化団体を中心となり実行委員会を立ち上げ、広く稚内市内外から参加者を募り植樹祭を実施しました。今後も、継続して下刈などの作業が行われる予定です。

(北海道森林管理局 宗谷森林管理署)



場 所：北海道稚内市 メクマ国有林

説 明：写真は、緑化プロジェクトに参加いただいた皆さん（左上）と植樹活動（右下）の様子です。